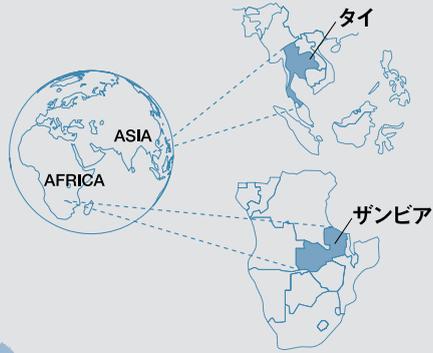


from Thailand & Zambia



Hot Angle

Country | Thailand & Zambia

文=佐々木 正雄 (JICA専門家)

写真提供: 孤立地域参加型村落開発プロジェクト (PaViDIA)

アジアの農業経験を アフリカへ



タイで小規模養豚経営の指導をしているピサン・スリスリヤ氏が、ザンビアでJICAが実施中の農村開発プロジェクトの短期専門家として活動した。アジアの経験をアフリカへ JICAを通じた双方のつながりが広がっている。



タイの養豚専門家が ザンビアへ

タイの農業省畜産振興局家畜改良・研究センターに勤務するピサン・スリスリヤ氏が、ザンビアの「孤立地域参加型村落開発プロジェクト (PaViDIA)」のJICA短期専門家として2006年6月から約2か月間活動した。PaViDIAでは、孤立した地域の村民の能力を強化し、彼らが自立的に村落開発を実現することを目指している。低所得と食料不足が深刻な問題であることから、PaViDIAは持続的農業を推進し、農業振興による収入創出活動を促進し



すくすくと育つ子豚。06年9月から展示活動も行われている

ている。

ザンビアの小農の多くは天水に頼るトウモロコシの一毛作を続けている。しかし干ばつや土壌劣化、化成肥料などの調達が困難などの理由から生産性が低く、農家経営は不安定だ。そこでPaViDIAでは、持続的農業推進の一環として、畜産の振興による小規模複合経営を推奨し、小規模畜産分野(小規模養豚とヤギ飼育)の短期専門家を求めている。その専門家には、途上国の現状を理解し、小規模養豚の技術普及の経験者であることが不可欠だった。



PaViDIAで研修に集まったザンビアの農村女性。村民にとって農業振興による所得向上と食料増産が課題だ

開発経験をアフリカに適用することを検討した末、この要件にまさびにぴったり合ったピサン氏が第三国専門家として現地へ赴いた。

タイとアフリカの懸け橋

ピサン氏は展示圃のある農協大学を拠点に、同農場長をカウンターパートとし、持続的農業担当の日本人養豚農家と畜産試験研究機関で技術調査、農協大学の小規模養豚展示の設計・設置、小規模養豚と改良ヤギ飼育マニュアルの原稿案作成などを

行った。ピサン氏の帰国後、現地では展示圃の豚舎建設や豚の搬入が終わり、9月から展示が始まった。その後、農業・協同組合省の農業次官が農協大学を訪れて新しい小規模養豚展示を視察し、今後の小規模養豚の普及事業の展開に大きな期待を寄せていた。

ピサン氏の活動は2カ月間と短いものであったが、現地に適応する小規模養豚技術を追求する姿勢がザンビアから高く評価された。農業分野では、タイやマレーシアのほうが日

本よりも効果的に支援ができる例が多々ある。タイでは、都市部で大規模な養豚事業が展開されている一方、農村部では家族単位による小規模な養豚経営が行われ、アフリカ諸国にとって参考になる点が多いからだ。ピサン氏が働く家畜改良・研究センターも、貧農対策の一環として小規模養豚経営を支援しており、生産性と収入向上を目指した技術開発・普及に取り組んでいる。

私はいつも、「周辺国には気軽に掛けられるようになったのだから、そろそろアフリカへも行ってもらわないか」とタイの関係者にハツパを掛けている。タイのように援助から卒業しつつある国とのこれからの付き合い方は、援助のパートナーとして連携する方向へ積極的なシフトすべきだろう。有効性と効率性の点から適切な分野を探れば、連携できることはいくつもあるはずだ。今回のように、JICAを通じてタイとアフリカ諸国とのつながりは広がっている。エチオピアの農村支援体制強化計画プロジェクトでは、05年と06年に、日本での研修の



豚舎の前で養豚技術を指導するピサン氏(右)



ピサン氏は現地に合った養豚技術を普及するため、農協大学農場長や技術者と何度も議論を重ねた

帰路に研修員がタイに立ち寄り、研究機関などで技術交換を行った。今後、種子栽培のタイ人専門家がエチオピアに派遣される予定もある。そのほかにも、アフリカ6カ国とタイの4つの機関が互いの知見を共有した「アジア・アフリカ知識共創プログラム(AAKCP)農村開発サブプログラム」のタイのカセサート大学教員が農村女性研修の講師としてケニアに招へいされたAICAD研修など、アジア、アフリカ双方にとつて実りのある技術協力が多く芽吹いており、着実に育ってほしいと強く願っている。

「AICAD...アフリカ人づくり拠点」はアフリカの貧困削減と社会経済開発を担う人材育成を目的に日本の支援で設立された機関。研究や研修事業などを行っている。

「世界HOTアングル」では、世界各地でJICA事業に携わる皆さんからの投稿を募集しています。ご応募・お問い合わせは、jicagap-opinion@jica.go.jp まで。